

築又ハ國寶保存又ハ映畫ニ關スル技術ヲ掌
ル

文部省ニ技手ヲ置ク技師ノ事務ヲ助ク
第十一條 屬及技手ハ通シテ專任百五人百十
二人ヲ以テ定員トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十二年七月十四日會議議案

秘

昭和十二年七月十四日	決議
昭和十二年七月廿一日	公布
勅令第三四七號	

敎學局官制

參照添附

勅令第

號

敎學局官制

第一條

敎學局ハ文部大臣ノ管理ニ屬

シ國體ノ本義ニ基ク敎學ノ刷新振興

ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條

敎學局ニ庶務課及左ノ二部ヲ

置ク

企畫部

指導部

庶務課及各部ノ事務ノ分掌ハ文部大臣之ヲ定ム

第三條 教學局ニ左ノ職員ヲ置ク

長官

勅任

部長

二人 勅任

書記官

專任一人 奏任

事務官

專任一人 奏任

理事官

專任一人 奏任

教學官

專任九人 奏任 内一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得

屬

專任六人 判任

教學官補

專任九人 判任

第四條 教學局ニ參與ヲ置キ局務ニ參

與セシム

參與ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ關係各
廳勅任官又ハ學識經驗アル者ノ中ヨ
リ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

學識經驗アル者ノ中ヨリ命ゼラレタ
ル參與ノ任期ハ三年トス但シ特別ノ
事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解

任スルコトヲ妨ゲズ

參與ハ勅任官ノ待遇トス但シ本官ヲ
有スル者ニ付テハ本官ノ受クル待遇
ニ依ル

第五條 長官ハ文部大臣ノ指揮監督ヲ
承ケ局務ヲ掌理シ所屬職員ヲ指揮監
督シ判任官以下ノ進退ヲ專行ス

第六條 部長ハ長官ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理ス

第七條 書記官、事務官及理事官ハ上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ分掌ス

第八條 教學官ハ上官ノ命ヲ承ケ教學ノ刷新振興ニ關スル調査及指導監督ヲ掌ル

第九條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第十條 教學官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ教學官ノ職務ヲ助ク

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

參照

教 學 局 官 制 制 定
奏任文官特別任用令中改正
文 部 省 官 制 中 改 正

目次

教 學 局 官 制

一頁

奏任文官特別任用令

一一

文 部 省 官 制

一七

勅令第 號

教學局官制

第一條 教學局ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ國體ノ本義ニ基ク教學ノ刷新振興ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 教學局ニ庶務課及左ノ二部ヲ置ク

企畫部

指導部

庶務課及各部ノ事務ノ分掌ハ文部大臣之ヲ定ム

第三條 教學局ニ左ノ職員ヲ置ク

長官 勅任

部長 二人 勅任

書記官 專任一人 奏任

事務官 專任一人 奏任

理事官 專任一人 奏任

教學官 專任九人 奏任
内一人ヲ勅任ト
爲スコトヲ得

屬 專任六人 判任

教學官補 專任九人 判任

第四條 教學局ニ參與ヲ置キ局務ニ參與セシム

參與ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳勅任官又ハ學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ
學識經驗アル者ノ中ヨリ命ゼラレタル參與ノ任期ハ三年トス
但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨ゲズ

第五條 長官ハ文部大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ掌理シ所屬職

員ヲ指揮監督シ判任官以下ノ進退ヲ專行ス

第六條 部長ハ長官ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理ス

第七條 書記官、事務官及理事官ハ上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ分掌ス

第八條 教學官ハ上官ノ命ヲ承ケ教學ノ刷新振興ニ關スル調査及指導監督ヲ掌ル

第九條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十條 教學官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ教學官ノ職務ヲ助ク

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理 由

我が國現下ノ趨勢ニ鑑ミ我が國體ノ本義ニ基ク教學ノ刷新振興
ヲ圖ルハ喫緊ノ要務ナリ然ルニ現在ノ思想局ノ機構ヲ以テシテ
ハ十分ニ其ノ機能ヲ發揮スルコト能ハザルヲ以テ思想局ヲ廢シ
新ニ教學局ヲ設置シテ國體ノ本義ニ基ク教學ノ刷新振興ニ關ス
ル事務ヲ管掌セシメントスルニ由ル

(參考)

教學刷新評議會答申

(抄)

(昭和十二年十月二十九日)

第一、教學刷新ノ中心機關ノ設置

現下ノ時勢ニ鑑ミ、教學刷新ノ實ヲ舉グルタメニハ、一層教學ノ精神・内容ヲ重視シ、國體・日本精神ニ基ク教育的學問的涵養創造ノタメニ力ヲ用ヒ、又コレヲ本トシテ十分ナル指導・監督ヲナスノ必要アリ。ヨツテ政府ハ文部大臣ノ管理ノ下ニ有力ナル機關ヲ設置シ、特ニ我が國教學ノ根本精神ノ維持發展ヲ圖リ、又教學ノ刷新振興並ニ監督ニ關スル重要事項ヲ掌理セシメ、關係各方面トノ密接ナル連繫ノ下ニ事業ノ遂行ニ當ラシムベシ。

ナホ、國體・日本精神ノ眞義ヲ闡明シ、精神諸學ノ基礎的研究ヲ行ヒ、ソノ確立發展ヲ圖ルタメ當該研究機關ノ整備ヲ圖リ、コレヲシテ十分權威アルモノタラシメ、又有力ナル參與機關ヲ設ケ、學者教育者有識者並ニ關係官等ヲ以テコレヲ組織シ、以上ノ三機關ヲシテ一體トナリテ合成的效果ヲ舉ゲシムベシ。

文部省官制 (抄)

第六條ノ四 思想局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 學校及社會教育團體ニ於ケル思想上ノ指導、監督及調査ニ關スル事項
- 二 其ノ他思想上ノ指導及調査ニ關スル事項
- 三 國民精神文化研究所ニ關スル事項

教學局ト思想局ノ職員對照表

教學局						思想局			
局長官	一人	部長	二人	書記官	一人	局長	一人	書記官	一人
事務官	一人	理事官	一人	事務官	一人	事務官	二人	事務官	二人
教學官	一人	屬	六人	屬	七人				
教學官補	九人								

勅令第

號

奏任文官特別任用令中左ノ通改正ス

「文部理事官」ノ次ニ「教學局理事官」ヲ加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理 由

教學局官制制定ニ伴ヒ同局理事官ハ其ノ地位及職責ニ鑑ミ之ガ
特別任用ノ途ヲ拓ク爲改正ノ要アルニ由ル

(参考)

奏任文官特別任用令

(新舊對照)

左ニ掲クル奏任文官ハ五年以上判任以上ノ官ニ在職シテ行政事務ニ従事シ判任官五級俸以上ノ俸給ヲ受ケタル者ヨリ高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得

(前略)

司法理事官

裁判所書記長

供託局事務官

典獄

典獄補

文部理事官

教學局理事官

傳染病研究所事務官

航空研究所事務官

氣象臺事務官

農林理事官

(以下略)

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第 號

文部省官制中左ノ通改正ス

第四條中「七局」ヲ「六局」ニ改メ「思想局」ヲ削ル

第六條ノ四ヲ削リ第六條ノ五ヲ第六條ノ四、第六條ノ六ヲ第六條ノ五、第六條ノ七ヲ第六條ノ六トス

第九條中「專任技師一人」ヲ「專任技師二人」ニ、「建築又ハ國寶保存ニ關スル技術」ヲ「建築、國寶保存又ハ映畫ニ關スル技術」ニ改ム

第十一條中「屬及技手ハ通シテ專任百五人」ヲ「屬及技手ハ通シテ專任百十二人」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理 山

教學局ノ設置ニ伴ヒ思想局ヲ廢止スルノ要アルト私立學校ノ指導監督、資源統制運用準備事務及映畫教育ノ普及事務ニ從事セシムル爲増員スルノ要アルニ由ル

(參考)

文部省官制

(新舊對照)

第四條 文部省ニ左ノ七局ヲ置ク

専門學務局

普通學務局

實業學務局

社會教育局

思想局

圖書局

宗教局

第六條ノ四 思想局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 學校及社會教育團體ニ於ケル思想上ノ指導、監督及調査ニ關スル事項

二 其ノ他思想上ノ指導及調査ニ關スル事項

三 國民精神文化研究所ニ關スル事項

第六條ノ四
第本條ノ五 圖書局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 教科用圖書ノ編輯及發行ニ關スル事項
- 二 教科用圖書ノ調査、檢定及認可ニ關スル事項

三 國語ノ調査ニ關スル事項

第六條ノ五
第本條ノ六 宗教局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 神佛各派、寺院、宗教ノ用ニ供スル堂宇其ノ他宗教ニ關スル事項
- 二 國寶保存ニ關スル事項

三 僧侶及教師ニ關スル事項

四 史蹟名勝天然紀念物保存ニ關スル事項

第六條ノ六
第本條ノ七 文部省ニ文部事務官專任三人及文部理事官專任三人ヲ置ク奏任トス上

官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第九條 文部省ニ專任技師二人ヲ置ク建築、建築又ハ國寶保存又ハ映畫ニ關スル技術ヲ掌ル

文部省ニ技手ヲ置ク技師ノ事務ヲ助ク

第十一條 屬及技手ハ通シテ專任百十二人
屬及技手ハ通シテ專任百五人ヲ以テ定員トス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

参照

教學刷新評議會答申及建議

昭和十年十二月五日本評議會ニ諮問相成タル「我が國教學ノ現
狀ニ鑑ミ其ノ刷新振興ヲ圖ルノ方策如何」ニツイテハ爾來總會
四回特別委員會九回ヲ開催シテ慎重審議ヲ重ネ昭和十一年十
月二十九日ノ總會ニ於テ左記ノ通り可決致シタルニ付此段及
答申候

昭和十一年十月二十九日

教學刷新評議會會長

平生 鈺三郎

文部大臣平生鈺三郎殿

教學刷新ニ關スル答申

第一、教學刷新ノ中心機關ノ設置	二
第二、教學刷新ノ實施上必要ナル方針	三
第三、教學刷新上必要ナル實施事項	六
一、學問研究・大學刷新ニ關スル實施事項	六
(一) 學問研究ニ關スル事項	六
(二) 大學ノ刷新ニ關スル事項	七
二、學校教育刷新ニ關スル實施事項	一〇
(一) 學校教育ノ精神・内容及ビ設備ニ關スル事項	一〇
(二) 學科目ニ關スル事項	一一
(三) 教員ノ養成ニ關スル事項	一三
(四) 試驗制度ニ關スル事項	一四
(五) 體育運動ニ關スル事項	一四

(六)	女子教育ニ關スル事項	一五
三	社會教育刷新ニ關スル實施事項	一五
(一)	社會教育ニ關スル事項	一五
(二)	家庭教育ニ關スル事項	一八
四	督學・人事制度及ビ教員再教育ニ關スル實施事項	一九
(一)	督學・視學制度ニ關スル事項	一九
(二)	人事制度ノ確立及ビ教員再教育ニ關スル事項	二〇
(三)	任用銓衡ノ改善ニ關スル事項	二一

大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇天祖ノ神勅ヲ奉ジテ永遠ニコレヲ統治シ給フ。コレ我ガ萬古不易ノ國體ナリ。而シテコノ大義ニ基キ一大家族國家トシテ億兆一心聖旨ヲ奉體シ克ク忠孝ノ美德ヲ發揮ス。コレ我ガ國體ノ精華トスルところニシテ又ソノ尊嚴ナル所以ナリ。我ガ教學ハ源ヲ國體ニ發シ、日本精神ヲ以テ核心トナシ、コレヲ基トシテ世局ノ進退ニ膺リ人文ノ發達ニ隨ヒ、生々不息ノ發展ヲ遂ゲ皇運隆昌ノタメニ竭スヲソノ本義トス。

明治初年以來盛ニ歐米文物ノ輸入ニ努メ、我ガ國文化ノ進展ニ貢獻シタルところ極メテ大ナルモノアリ。然ルニ一面ニ於テハ模倣追隨ノ弊マタコレニ伴ヒ、精神生活ノ方面ニ於テハソノ害勦カラザルモノアリ。タメニ維新當初ノ洪謨ニ明示セラレシ我ガ國教學ノ根本方針ハ、漸ク忘レラレントスルニ至レリ。教育ニ關スル勅語ノ渙發アリテ、教學ノ根本コレニヨツテ昭示セラレ、爾來コノ大詔ノ遵奉ニ努メタリト雖モ、時勢ノ然ラシムルところ歐米文化ノ模倣ハ依然トシテヤマズ、ソノ影響スルところ廣ク、延イテ思想混亂ノ因由トナリ、教學ノ缺陷ヲ將來スルニ至レリ。

二
ココニ諮問「我が國教學ノ現狀ニ鑑ミ其ノ刷新振興ヲ圖ルノ方策如何」ヲ考フ
ルニ、ソノ關係スルトコロ極メテ廣汎ニシテ、簡單ナル答申ヲ以テソノ全般ヲ盡
クスハ困難トスルトコロナレドモ、今ソノ要綱トナルベキ事項ヲ考察スルニ、先
ヅ教學刷新中心機關設置ノ問題ヲ舉グベク、コレニツイデ教學刷新實施上必要ナ
ル文政上ノ諸方針並ニ教學ノ各種ノ方面ニ互ル刷新上ノ實施事項ヲ舉グルコトヲ
得ベシ。以下序ヲ逐ツテコレヲ列記スレバ次ノ如シ。

第一、教學刷新ノ中心機關ノ設置

現下ノ時勢ニ鑑ミ、教學刷新ノ實ヲ舉グルタメニハ、一層教學ノ精神・内容ヲ
重視シ、國體・日本精神ニ基ク教育的學問の涵養創造ノタメニ力ヲ用ヒ、又コレ
ヲ本トシテ十分ナル指導・監督ヲナスノ必要アリ。ヨツテ政府ハ文部大臣ノ管理
ノ下ニ有力ナル機關ヲ設置シ、特ニ我が國教學ノ根本精神ノ維持發展ヲ圖リ、又
教學ノ刷新振興並ニ監督ニ關スル重要事項ヲ掌理セシメ、關係各方面トノ密接ナ
ル連繫ノ下ニ事業ノ遂行ニ當ラシムベシ。
ナホ、國體・日本精神ノ眞義ヲ闡明シ、精神諸學ノ基礎的研究ヲ行ヒ、ソノ確
立發展ヲ圖ルタメ當該研究機關ノ整備ヲ圖リ、コレヲシテ十分權威アルモノタラ
シメ、又有力ナル參與機關ヲ設ケ、學者教育者有識者並ニ關係官等ヲ以テコレヲ
組織シ、以上ノ三機關ヲシテ一體トナリテ合成的效果ヲ舉ゲシムベシ。

第二、教學刷新ノ實施上必要ナル方針

(一) 我が國ニ於テハ祭祀ト政治ト教學トハ、ソノ根本ニ於テ一體不可分ニシテ三
者相離レザルヲ以テ本旨トス。ヨツテコノ本旨ヲ發揚シ、教學ノ根基ヲ明ニス
ルノ方策ヲ講ズルハ、時勢ニ照シ緊要トスルトコロナリ。

(二) 國體・日本精神ノ眞義ノ闡明ハ、天祖ノ神勅、歷代ノ詔勅並ニ教育ニ關スル

勅語ヲ初メトシ明治以後屢下シ給ヘル聖詔ヲ本トシ、更ニコレヲ我が國開闢以來ノ歴史ニ照シ、苟モ謬ナキヲ期セザルベカラズ。

四

(三) 國體・日本精神ノ眞義ノ闡明ハ、現下ノ問題トシテハ、明治以來我が國民特ニ知識階級ノ思想・學問ノ中ニ浸透セル西洋近代思想ノ基本タル個人主義・自由主義・權力主義・主知主義・觀念論及ビ唯物論等ノ本質ヲ明瞭ニシ、ソノ影響ヲ受ケタル諸方面ノ實狀ヲ批判シ、單ナル形式的國體思想ノ唱道ニ陷ルコトヲ避ケザルベカラズ。

(四) 國體ノ眞義ノ闡明ニハ、統治權ノ所在ヲ明ニスベキハ論ヲ俟タズ、更ニ歴代ノ詔勅特ニ教育ニ關スル勅語ニ示サセラレタル國體ノ具現ヲ以テ精神トシ、教育ノ内容ヲ刷新シ學問ニ根柢ヲ與ヘ、我が國ノ道ヲ實生活ニ顯現スルコト肝要ナリ。

(五) 學問、特ニ人文ニ關スル學問ノ刷新振興ニツイテハ、日本の乃至東洋の考ヘ方ノ存スルコトヲ自覺スルヲ要ス。單ニ歐米ノ思考様式・研究方法ノミヲ以テ我が國家・國民乃至文化ノ説明ヲ試ミントスルモ、ソノ眞義ヲ把握シ得ザルカ或ハ誤解ニ陷ルノ外ナカルベシ。

(六) 教育ノ刷新ニツイテハ、單ニ國體ノ意義ヲ抽象的ニノミ説明シ教授スルニ止ラズ、各種教科ノ内容、教育ノ方法、修養ノ手段等凡テ教育ノ具體的ナル方面ニ至ルマデ、我が國ノ特性ニ從ヒ攻究發展セシムルノ用意ナカルベカラズ。

(七) 教學ノ刷新ニツイテハ、東洋教學・東洋文化ニ留意シ、特ニ久シク我が國文化ノ中ニアツテ我が國風ニ醇化セラレタル東洋教學・東洋文化ノ振作ヲ圖ルコト肝要ナリ。

(八) 教學ノ刷新ハ、現下教學ノ缺點ヲ除去スルト共ニ、益々歐米文化ヲ攝取醇化シ、我が國特有ノ博大ナル文化ノ創造ヲ目的トスルモノニシテ、歐米文化ノ排斥或ハ輕視ニ陷ラザルヲ要ス。

五

(九) 教學ノ刷新ニツイテハ、教育界・學界ニ於ケル國體ノ本義ニ副ハザルモノノ是正ト排除トニ努ムルト共ニ、教學ト密接ナル關係ヲ有スル政治・經濟・宗教・社會・家庭等ニ關シテ十分ニ考慮スルノ必要アリ。ナホ世人ヲシテ形式的・獨斷的國家觀ニ墮シテ複雜ナル實際社會ノ認識ヲ缺キ焦躁ニ陥リ、創造的刷新ノ軌道ヲ逸脱スルガ如キコトナカラシムルヲ肝要トス。

第三、教學刷新上必要ナル實施事項

一、學問研究・大學刷新ニ關スル實施事項

(一) 學問研究ニ關スル事項

イ 國體・日本精神ヲ學問的體系ニ於テ明ニシ、我が國獨自ノ立場ニ於テ、

獨特ノ内容ト方法トヲモツ精神諸學ヲ發展セシムルコト肝要ナリ。

ロ 自然科學並ニソノ應用ノ學問ニツイテハ、精神諸學ニ對シソノ任務ト分擔トヲ明ニシ、益ソノ進歩發達ヲ圖リソノ研究施設ヲ獎勵スベシ。

ハ 我が國ノ學術・文化ヲ自覺的ニ創造發展セシメ、又コレヲ海外ニ發揚スルタメニ、學會・學術振興施設並ニ國際文化事業等ヲ獎勵發達セシムルコトヲ必要トス。

(二) 大學ノ刷新ニ關スル事項

ニ 我が國ノ大學ハ國家ノ重要ナル學府トシテ、國體ノ本義ヲ體シ、以テ學問ノ蘊奧ヲ攻究シ、教養アル指導の人材ヲ養成スルヲ本分トス。凡テ大學ニ於ケル學問ノ研究、學生ノ教育並ニソノ制度ノ運用等ハ、コノ精神ニ合致スルモノタラシムベシ。

ホ 前項ノ趣旨ヲ達成センガタメ、文科系統ノ學部ニ於テハ、國家的見地ニ立脚シテ一層諸學ノ發達ヲ圖リ、ソノ日本の特色ヲ高調スベク、又理科系統ノ學部ニ於テモ、國體・日本文化ニ關スル教養ニ留意スルヲ要ス。而シテコレガタメ必要ニ應ジ、各大學ニ於ケル學部・學科・講座・學科目等ニ互ツテ新設改廢ヲ行フベキモノトス。

ヘ 大學ニ於テハ、學問研究ニ關シ國家的指導精神ノ下ニ綜合ノ實ヲ舉ゲ、又各科ノ研究ノ緊密ナル聯絡ヲ圖リ、連合研究會・共同研究等ノ施設ヲ盛ナラシメ、重要ナル題目ヲ選ビテ特別講義ヲ行ヒ、廣ク一般學生ニ聽講セシムルガ如キ方法ヲ講ズルコト肝要ナリ。

ト 大學教授ヲ選任スルニハ、學識識見人格ヲ重視シ、全體的思想傾向ニ着眼スベキモノトス。又學問ノ研究ト學生ノ教授トノ間ニハ明確ナル區別ヲ存シ、不適當若クハ未熟ナル學說ヲ教授スルガ如キコトナキヲ要ス。ナホ學問ノ發達ヲ圖ルタメ、専ラ研究ニ當ル教授ヲ置クモ亦、一方法ナルベシ。

チ 大學ニ於ケル講義ハ、現在ノ大量的聽講ノ缺陷ヲ改ムルニ留意シ、努メテ師弟直接ニ接觸シテ人格ノ陶冶ヲ圖ルノ必要アリ。コレガタメニハ一層教授各自ノ努力ヲ必要トシ、一面ニ於テコレニ必要ナル施設ヲナシ、又漸次教員數ヲ増加シ學生數ヲ減少スルニ努メ、演習ヲ盛ナラシムベシ。

リ 學生ノ指導・訓育ノ徹底ヲ期スルタメ、當該機關ノ擴充ヲ圖リコレヲ重視シ、又コレト教授トノ聯絡ヲ密ナラシメ、積極的ニ活動セシムルコト肝要ナリ。

ス 學生ノ教育ニハ、敬神崇祖ノ精神ヲ涵養シ、日本人トシテノ自覺的修練ヲ重ンジ、國家觀・人生觀ノ確立ヲ圖リ、剛毅潤達ノ氣象ヲ養ヒ、紀律ト禮讓トヲ重ンジ、現下動モスレバ陷ラントスル誤リタル自由主義・功利主義ヲ排除スルニ努ムベシ。

二、學校教育刷新ニ關スル實施事項

一〇

(一) 學校教育ノ精神・内容及ビ設備ニ關スル事項

イ 各學校ニ於テハ、我ガ國古來ノ敬神崇祖ノ美風ヲ盛ナラシメ、コノ精神ノ徹底ヲ圖ルタメ適當ナル施設ヲ考慮シ、又コレニ關スル教養ニ力ヲ用フルコト必要ナリ。

ロ 學校ヲ以テ國體ニ基ク修練ノ施設タラシメ、教師ト生徒、生徒相互間ニ於テ精神的人格の關聯ヲ圖リ、我ガ國ノ家族的精神ヲ學校教育ニ實現セシメ、小學校・青年學校・中等學校・高等學校及ビ專門學校ヲ通ジ、夫々校風ノ下ニ躰・修練ヲ重シ、紀律ヲ守リ志操ヲ堅實ニシ、徒ニ自由ニ流ルルコトナク奉公ノ精神ヲ旺ナラシメ、實踐躬行ヲ主トスルモノタラシムルコト肝要ナリ。コノ方針ノ下ニ學科課程、學科目ノ内容、教育ノ方法、學校ノ組織等ヲ刷新スルノ必要アリ。

ハ 學校長ハ校務ノ事務的處理ノミヲコトスルコトナク、教學ノ根基ニ關スル識見ヲ高クシ、人格ヲ以テ學校ヲ統率シ、部下教員ノ指導誘掖ニ努メ、教員ハ專門學科ノ研究ニ努ムルハ固ヨリ、廣ク我ガ國教學ノ根本ニ關スル教養ヲ豐ニシ、教育者トシテノ自覺ノ下ニソノ修養ヲ懈ルコトナク、時代ニ關スル見識、生徒指導ノ實力ヲ養フヲ肝要トス。

ニ 教科書ノ編纂・檢定・認可等ニ關シ根本的ナル檢討ヲ加ヘ、外來思想ノ醇化ニ努ムルト共ニ斷片的教材ノ羅列ヲ排シ、眞ノ人物ノ育成ニ適セシムル様内容ノ刷新ヲ圖ルノ必要アリ。

ホ 學校ノ設備及ビ建築ハ教養ノ施設タルニ適セシムベク、特ニ寄宿舎ハ師弟ノ接觸ヲ圖リ、修養・鍛鍊ノ設備トシテ教育ニ於ケル附帶的地位ヲ脱セシメ、コレヲ重要視スルコト肝要ナリ。

(二) 學科目ニ關スル事項

一一

へ 小學校・青年學校・中等學校・高等學校及び專門學校等ノ種別程度ニ應
ジ、國民道德・國文・國史・地理・漢文等ノ教育ヲ十分ナラシムル必要アリ。

ト 中等學校ノ修身科並ニ公民科ニツイテハ、ソノ統合ヲ圖リ、忠孝ノ大義
ヲ辨へ、遵法ノ精神ヲ徹底セシムルコト肝要ナリ。

チ 歴史科ノ教育ニツイテハ、單ナル史實ノ詮索、ソノ羅列的説明ヲ排シ、
國史ヲ貫ク精神ヲ闡明シテ他ノ學科目トノ統一關係ヲ見出シ、國民的自覺
ノ喚起、信念ノ確立ヲ圖ルコト肝要ナリ。

リ 國語科ニツイテハ、我ガ國民性ヲ具現セル國語國文ノ特質ヲ會得シ、ソ
ノ深キ精神ヲ理解セシムルニ努メ、又國語ヲ尊重シソノ愛護醇化ニ意ヲ用
ヒ、外國語濫用ノ近時ノ浮薄ナル傾向ヲ排除スルコトヲ要ス。

ス 外國語ノ教科ニツイテハ、全般的ニ考慮ヲ加ヘ實際上ノ必要ニ應ジテコ
レヲ課スベク、又ソノ教授ニ於テハ、外國ノ國情・國民性ヲ知ラシメ、コ
レニヨツテ我ガ國ノ特徵ヲ明ナラシムルニ留意スルノ必要アリ。

ル 自然科學的學科目、實業的學科目ニツイテハ、益、ソノ發達ヲ圖リ、正確
ナル知識ノ涵養ニ努ムルト共ニ、自然界ノ深奥ナル意味ヲ認メ、敬虔ノ念
ヲ以テコレニ對スルコト必要ナリ。

ヲ 武道・藝道・作法並ニ我ガ國藝術ニ關スル教養ハ彌、コレヲ重視シ、以テ
精神的情操的陶冶ニ努ムルコト肝要ナリ。

(三) 教員ノ養成ニ關スル事項

ワ 教員ノ養成ニツイテハ、專門的知識ト共ニ特ニ國體ニ關スル教養・體認
ニ重點ヲ置キ、以テ眞ニ人ノ師タリ得ル教員ヲ養成スルニ努ムベク、教員

養成ノ學校ニツイテハ意ヲ用ヒテソノ刷新ヲ圖リ、ナホ現在ノ教員檢定制
度ノ如キモ根本的ニコレヲ改善スルノ必要アリ。

(四) 試験制度ニ關スル事項

カ 現在ノ入學試験制度、ソノ他一般試験制度ヲ根本的ニ檢討シ、從來ノ知
識偏重の試験ノ弊害ヲ排除シ、ソノ他各種ノ缺陷ヲ矯正シ、人格ノ尊重、
德育ノ振興ニ關スル世間ノ關心ヲ高メ、學校教育ノ刷新ト父兄ノ反省トニ
資スルコト肝要ナリ。

(五) 體育運動ニ關スル事項

ヨ 體育運動ニ於テハ、我が國古來ノ武道ノ精神ニ則リ、敬虔剛毅ノ氣風ヲ
盛ニシ、公明正大ノ態度ヲ重ンジ、殊ニ選手制度ニ伴ヒ易キ各種ノ弊害ヲ
除去シ、又ソノ研究ハ單ナル運動ノ機械的・生理的乃至心理的法則ノ如キ

モノノミナラズシテ、身心一體ノ具體的法則ノ研究ヲ盛ナラシメ、ナホ指
導者ノ養成ヲ重視シ、コノ方針ノ下ニ體育研究機關ノ内容ノ刷新ト擴充ト
ヲ圖ルノ必要アリ。

(六) 女子教育ニ關スル事項

タ 女子ノ教育ハ、我が國女子本來ノ德性ノ涵養ニ意ヲ用ヒ、特ニ妻並ニ母
トシテノ本分ヲ重ンジ、家庭教育ニ必要ナル教養ヲ豐ナラシムルト共ニ、
國民的職分ノ自覺ヲ十分ナラシメ、正シキ女子教育觀ノ徹底ヲ圖ルノ必要
アリ。

三、社會教育刷新ニ關スル實施事項

(一) 社會教育ニ關スル事項

イ 社會教育ニ於テモ、西洋思想ノ醇化ニ努メ、新シキ自覺ノ下ニソノ精神・内容ノ刷新ヲ圖ルト共ニ、コレニ關スル行政組織・諸團體等ニツキ十分ナル研究ト改善トヲ行フコト必要ナリ。

ロ 社會教化機關・教化團體・宗教團體等ノ聯絡發達ヲ圖リ、ソノ教化ニツイテハ國體ヲ中心トシ、深ク現下ノ時局ヲ認識シテ積極活動ヲ促スノ必要アリ。又社會教育委員制度ノ普及發達ヲ圖リ、各團體ニ興風委員ノ如キモノヲ置キ、國體ニ基ク道義的動員ヲ行ヒ、良風美俗ノ作興ニ努ムルヲ要ス。

ハ 我ガ國立憲制度ノ本義ヲ明ニシ、西洋諸國ニ於ケル制度ト相異ル點ヲ闡明シ、コノ根本精神ノ下ニ政治教育ノ内容ヲ刷新シ、ソノ普及徹底ヲ圖リ、以テ我ガ國獨自ノ立憲制度ノ健全ナル發達ヲ期スル必要アリ。

ニ 新聞・雜誌等ヲシテソノ國家的任務ノ重大ナルコトヲ自覺シ、時勢ニ鑑ミ公正ナル批判、適切ナル報道ニヨツテ中正穩健ナル思想ノ作興ヲ圖リ、

國民思想ノ啓導ニ當ラシムル様適切ナル方策ヲ講ズルノ必要アリ。

ホ 文藝・美術・音樂・演劇・映畫・ラヂオ等ヲシテ國民精神ノ作興ニ努メ、中正ナル思想ノ普及ヲ圖リ、時勢ニ對スル健全ナル認識ヲ與ヘ、日本人トシテノ人生觀・國家觀・世界觀ノ確立、情操ノ涵養ニ努メシムベク、コレガタメ夫々適當ナル方策ヲ考慮スル必要アリ。

ヘ 廣ク優良ナル圖書・雜誌ノ國家的認定・推薦ヲ行ヒ、子女ヲ初メ一般人ノ讀ムベキ良書ヲ明示シ、平易ナル指導的冊子ノ發行・普及ヲ圖リ、ナホ國民ノ思想・文化ノ發達ニ至大ノ關係ヲ有スル圖書館・博物館ノ發達ヲ圖ルニ努ムベシ。

ト 適當ナル場所ニ敬神崇祖・修養鍛鍊ノ道場ヲ設ケ、又我ガ國風ニ隨ヒ人物ノ養成ニ努ムル塾ノ如キモノノ獎勵ヲ圖ルノ必要アリ。

チ 敍上社會教育ニ關スル事項ニシテソノ關係各省ニ跨レルモノニツイテハ、適切ナル聯絡調査機關ヲ設ケ、各省協力シテソノ有效ナル實現ヲ圖ルノ必要アリ。

(二) 家庭教育ニ關スル事項

リ 我が國風ニ基ク家庭教育ノ振作ヲ圖リ、西洋思想ノ弊ヲ除キ、良風美俗ノ發揚ニ努ムルヲ要ス。コレガタメニ家庭教育ノ作興ニ關スル調査ヲ行ヒ、又適當ナル施設ヲ興スコトヲ必要トス。

ヌ 家庭ニ於ケル子女ノ躰ト教養トヲ重ンジ、學校教育ニノミ依頼スルノ弊ヲ除クト共ニ、家庭ト學校トノ聯絡ヲ一層密接ナラシメ、教育ノ精神及ビ方針ヲ相互十分ニ理解スルト共ニ協力シテ子女ノ教養ヲ全ウスルコト肝要ナリ。

ル 家庭ニ於ケル功利的・虛榮的教育觀ヲ排シ、眞ノ人物ノ育成ヲ以テ教育ノ本旨トスルコトヲ徹底セシムルト共ニ、入學試験ニ於ケル弊害、無自覺ナル上級學校進學ノ弊ヲ除キ、延イテ就職難ノ緩和ニ資スベシ。

四、督學・人事制度及ビ教員再教育ニ關スル實施事項

(一) 督學・視學制度ニ關スル事項

イ 督學・視學制度ニツイテハ、法規ノ形式的解釋ニヨル畫一的監督ヲ排シ、個々ノ實際ニ適スル指導ヲ主トシ、教育・學問ノ精神・内容ニ重點ヲ置キ、コレヲ刷新擴張スルコト肝要ナリ。又督學官・視學官・視學等ノ任用ハ、特ニ人格ニ重キヲ置キ、教育・學問及ビ教育行政全般ニ互ル識見ヲ具備スルヲ以テソノ標準トスルコト必要ナリ。

ロ 視學委員制度ヲ改善擴張シ、以テ督學制度ノ足ラザルヲ補ヒ、各學科ノ

視察・指導・監督ヲ十分ナラシムベキモノトス。

二〇

(二) 人事制度ノ確立及ビ教員再教育ニ關スル事項

ハ 教育行政官吏ノ任用ニツイテハ、特ニ學識經驗ニ留意シテ適材ヲ舉グルニ努ムベク、又地方教育行政官吏ノ任用ニ關シテハ、現在ノ方法ニ改善ヲ加ヘ、コレヲ文部省ノ管轄ニ移シ、又ハ少クトモ文部省ノ十分ナル關與ニヨツテ行フ様考慮ヲ加フルノ必要アリ。

ニ 教育行政ニ於ケル人事銓衡考課ニ關シ、中央並ニ地方ノ組織ノ確立ヲ圖リ、各學校ヲ通ズル全般的ナル人事行政ヲ行フニ意ヲ用ヒ、又諸種ノ任用規定ヲ改メ任用ヲ自由ナラシムルト共ニソノ範圍ヲ擴大シ、コレニヨツテ眞ノ人材ヲ見出シ、適材ヲ適所ニ置キ、以テ人事行政上ノ刷新ヲ圖リソノ實效ヲ舉グルニ努ムベシ。

ホ 現在ノ校長・教員ソノ他教育關係者ヲシテ、我が國民トシテノ人生觀・國家觀ノ把握ニ努メシムルガタメ、中等學校以上ノ教員ニツイテハ主トシテ教學刷新ノ中心機關ニ於テ、小學校教員等ニツイテハ各府縣國民精神文化講習所等ニ於テ、有效ナル再教育ヲ施スノ必要アリ。

(三) 任用銓衡ノ改善ニ關スル事項

ヘ 高等試験、教官・技術官ノ銓衡、官公吏ノ任用、實業界ニ於ケル人ノ採用等ニツイテハ、精神の修養・人物識見如何ヲ以テ主眼トナシ、學校ノ種別ソノ程度等ニ拘泥シ、又専門的知識ノ優劣如何ヲノミ標準トスルガ如キ弊ヲ除クニ努ムベシ。ナホ高等試験ニツイテハ、ソノ學科目ノ編制ニツキ檢討ヲ加フルノ必要アリ。

二一

以上現下ノ教學ノ刷新ニツキ、特ニ必要ナル機關、方針ノ大要並ニ具體的事項ニ關シ大體ヲ説述シタリ。而シテ本答申ハ單ニ夫々ノ事項ニツキ要旨ヲ述ベタルニ止ルヲ以テ、當局ニ於テハソノ意ノアルトコロヲ汲ミ、速ニコレヲ實施セラレシコトヲ望ム。

本答申ニ示シタルガ如キ教學ノ刷新ハ、多年ノ積習ヲ打開シ、コレニ根本的ノ刷新ヲ加フル一大事業ニシテ、ソノ實施ハ幾多ノ困難ヲ豫想セラルルモ、當局ニ於テハ從來ノ慣行ニ泥ムコトナク、刷新ニ關スル明確ナル自覺ノ下ニ斷乎トシテコレガ實施ニ當ラレンコトヲ望ム。

教學ノ刷新ハ獨リ教育・學問ノタメノミナラズ、實ニ現下諸方面ノ刷新ノ根本ヲナスモノナリ。凡ソ國家各般ノ刷新ニハ、制度・施設等ノ改善固ヨリ忽ニスベカラズト雖モ、更ニ根本的ニハ、コレヲモノヲ運用スル人並ニ一般國民ノ思想・精神ノ刷新ヲ必要トス。本答申ノ企圖スルトコロハ國體・日本精神ノ眞義ニ基ク教學ノ内容ノ刷新ニヨリ、獨リ教學ノミナラズ政治・經濟・産業等ノ刷新ノ基礎ヲ確立セントスルモノニシテ、教學ソノモノガ皇國發展ノ基本ナルコトノ信條ニ由リ答申シタルモノナリ。

建 議

政府ハ我が國內外ノ情勢ニ鑑ミ、教學ノ指導並ニ文政ノ改善ニ關スル重要事項ヲ審議スルタメ、内閣總理大臣統轄ノ下ニ、有力ナル諮詢機關ヲ設置セラレンコトヲ望ム。

右建議ス。

昭和十一年十月二十九日

教學刷新評議會會長

平生 鈇 三 郎

文部大臣平生鈇三郎殿

昭和十二年七月十四日會議議案

秘

昭和十二年七月十四日	決議
昭和十二年七月廿一日	公布
勅令第三四九號	

奏任文官特別任用令中改正ノ件 参照添附